

自然豊かなエアクラート。JWDに皆様をお迎えすることは大きな喜びです。因みに、JWDというのは「辺鄙なところ」（Janz Weit Draußen）というのが普通ですが、ここライン川のほとりでは「ドイツ西部における日本」（Japan in western Deutschland）です。天候もよく、3日前には桜が満開でした。これからは「桜吹雪」が始まりますが、風に舞う花びらというのも一興であり、日本人が桜を愛でるもう一つの理由でもあります。

今日の催しの背景を説明しますと、昨今日本国政府として、海外で活躍する日本企業の支援とともに、日本の優れた技術の海外発信に力をいれていることがあります。この点、世界の自動車市場でトップの座にありながら、ドイツ国内では2%というシェアで甘んじているトヨタというのは、十分にその対象になり得ると思います。その原因がトヨタの販売戦略が遠慮がちであることによるのか、それとも、ドイツの自動車市場の特殊事情、例えば、顧客層がドイツ車を嗜好するとか、EUの対日関税の高さによるものであるのかについては、ここでは立ち入りません。トヨタ側から社としての評価はお聞きになれるものと思います。

私自身は、環境技術の重要性を上げたいと思います。ドイツの数字は持っていませんが、日本においては、二酸化炭素排出量の約17%が運輸分野から排出されており、そのうちの86%を自動車が占めております。日本車に関しては、トヨタのプリウスやアウリスを筆頭とするハイブリットエンジンのおかげで、相当のエネルギー効率を達成しています。しかし、一層のCO2排出の削減が可能となれば、自動車産業はさらに大きな気候変動への貢献が可能となります。

こうした背景の下、トヨタの最新モデルMIRAIは、先駆者としての役割を果たすこととなります。MIRAIは、ガソリンやディーゼルではなく、電気でもなく、水素を燃料としています。これにより、CO2の代わりに水しか排出しないので、世界一クリーンな自動車です。また、燃料電池自動車の普及のためには、水素供給ステーションといったインフラが不可欠です。燃料電池自動車の普及のため、トヨタは水素関連の特許を無償開放するという画期的な取り組みをしています。

安倍政権の成長戦略においても、水素社会の実現が盛り込まれております。東日本大震災から5年がたった本年3月に、安倍総理は原発事故で大きな被害を受けた福島県を訪問し、福島県を日本中に水素エネルギーを供給する一大生産地とし、2020年の東京オリンピックまでに、福島県内だけでも、水素自動車1万台分の水素生産能力を目指すことを発表しました。

本日は、持続可能性をテーマとするトヨタの活動と最新のイノベーションをご覧頂き、トヨタがドイツ市場でその名と技術に相応しい位置を占めることができるよう、皆様の支援を頂ければ幸いです。